

## ディプロマ・ポリシー

- ・4年間の教育を通じて、広い教養と深い専門知識を携えた上で、社会の諸側面において自らの内に課題をみつけ、探求していく姿勢、論理的思考と的確な判断力を身につけた人材の育成が望まれます。
- ・また日本文化の特質について考究することによって、自らの感性を磨き、文化の継承と創造、社会人として調和のある共存に寄与し得る人材を送り出すことを目指します。
- ・学生は所定の期間在学し、学部学科の教育理念・教育目標に沿って設定した教育科目を履修して、教養科目、専門科目の双方において基準となる単位を修得することが求められます。卒業可能修得単位は、128単位を定めています。
- ・日本文化学科の学生は4年間の集大成として、卒業論文の作成、提出を学位授与の必修要件としています。  
卒業論文の作成においては、研究テーマの発見、関連する資料や文献の収集、執筆を通して論理的思考や文章構成力が養われることを重視しています。ゼミでは口頭発表や学生相互の討論、発表資料の作成等を通して、自己表現力や分析力、問題探求能力などが求められ、評価の対象となります。

## カリキュラム・ポリシー

- ・日本文化の諸領域の内に自ら課題を立て、それを解決できる能力を養成することを学科の教育課程の実施の方針としています。
- ・その実現のために、学び、探求する力を養うカリキュラムを用意しています。授業形態は、講義・演習・講読・実習等があり、2年次に履修する四つの領域を横断的に学ぶ科目・基本的リテラシー能力向上のための科目を準必修科目とし、3年・4年で履修するゼミ科目・卒業論文を必修科目としています。
- ・国際社会の中の日本文化という視点を重視すると共に、生きた文化を実際に見て、聞いて、触れる「文化探求現場主義」を掲げ、見学・実習・フィールドワーク等を教育内容に取り入れ、実践しています。

## アドミッション・ポリシー

- ・日本文化学科では、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の四つの領域から、多角的に日本文化について考え、学び、その特質を深く理解した上で、日本の文化をさまざまな形で発信できる人材の養成をめざしています。
  - ・高等学校での各教科、特に国語・社会・英語についての基礎学力を有し、大学で発展的内容を学ぶ準備のある学生を求めます。また正確な日本語の読み書きの基礎として、漢字検定の準2級程度の知識がある学生が望ましいと考えます。
  - ・他者の話の要点を捉えてメモし、考察の材料にできる能力は、大学の講義を受講する上でも必須です。さらに、身の回りの文化現象に「なぜ?」「どうして?」という自分なりの疑問を持ち、答えを探ろうとする姿勢も大切です。
- 本学科では、以上のような能力と意欲を持つ学生の入学を期待しています。